志布志のカワゴケソウ科植物生育地

【所　在　地】志布志市志布志町安楽（前川，安楽川）
【種　　別】国指定天然記念物（植物）
【指定年月日】平成２２年２月２２日

ウスカワゴロモ（左）とカワゴケソウ（右）の混生

カワゴケソウ科植物は，世界の熱帯から亜熱帯地方を中心に分布し，日本では鹿児島県と宮崎県にカワゴケソウ属とカワゴロモ属とが６種分布している。日本周辺では中国南部・タイなどには分布するものの，台湾・フィリピンなどをとばして隔離分布している。この仲間はほとんどが急流の水中に生育し，流水中に適応した特殊な形態に変化した植物である。種子植物であるが形態はコケ類・藻類のようで，根は平たい葉状体となり岩の表面に広がり，葉は小さな針状で，光合成は根から変化した葉状体で行っている。

志布志市の安楽川にはカワゴケソウとウスカワゴロモが，前川ではウスカワゴロモが生育している。この仲間は河川ごとに分布・分化している傾向が強く，一つの河川の同じ場所で２種が生育することは世界的にも希少なものである。かつては，生活排水や畜産業の汚水などにより水質が悪化し生育状況が悪化したが，近年では，どちらの河川も地域住民による保護活動などにより安定した生育状況が維持されている。

このように，通常の植物とは異なった特異な形態を示し，隔離分布を示す学術的価値が高い植物であり，２種の混生も見られる希少な地域である。